

○講義等の内容

○共通教育科目

授業科目	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
基礎生体科学	(目標) ヒトの生命活動を支える遺伝、発生、代謝、といった基本事象についての理解は、健康維持や疾患の診断・治療の基礎となる。本科目では受講者がこれらの事象を分子、細胞、個体レベルで理解し、説明できるようになることを目指す。 (授業内容・方法) 遺伝、発生、代謝に関連する全8項目について、配布資料をもとに、適宜スライドやビデオを用いた講義を行う。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (成績評価基準) 授業への参加状況と、レポートによる理解度のチェックにより評価する。
人体構造機能学概論 (オムニバス方式)	(目標) 本講義は、医学の対象となる人体の構造（解剖学と組織学）と機能（生理学）について、必須かつ最新の知識及び考え方を概説する。 (授業内容・方法) (1) 人体の構成、(2) 細胞と組織、(3) 人体の器官系、(4) 皮膚、(5) 骨格系、(6) 骨格筋、(7) 神経系、(8) 感覚系、(9) 内分泌系、(10) 血液、(11) 循環器系、(12) リンパ系と免疫、(13) 呼吸器系、(14) 消化器系、(15) 栄養と代謝、(16) 泌尿器系、(17) 体液と電解質、(18) 酸塩基平衡、(19) 生殖系、(20) 人体の発生と成長に関する講義を行う。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (成績評価基準) 細胞生物学 : 出席数及びレポートなどにより評価する。 分子機能形態学 : 出席数及びレポートなどにより評価する。 システム神経生理学 : 口頭試問により、理解度を判定し、60%以上を合格とする。 統合分子生理学 : 出席数及びレポートなどにより総合的に評価する。
分子生命科学概論 (オムニバス方式)	(目標) 医科学研究において必須となる分子生物学・生化学の最新知識を習得し、医学研究実践のための基礎を身につける。 (授業内容・方法) オムニバス方式で、生体分子代謝、バイオサイエンス、生体分子解析に関する講義を行う。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (評価の方法) 平常の授業出席率、授業態度、履修した講義の試験成績、レポート成績などをもって総合的に評価する。試験の成績は優・良・可・不可の4種をもって表し、優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。
薬理学概論	(目標) 医学研究を推進する上で必要となる薬理学の基礎知識、すなわち、薬とは何か、薬の分類、薬効に影響を及ぼす諸因子、薬の作用と作用点、薬の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）、薬の有害作用、薬の相互作用などの知識を修得させる。 (授業内容・方法) 生体の正常な機能が生理的な範囲を逸脱した状態が病気であり、それに対して薬を用いて正常な状態に近づけるのが薬物療法である。このように、薬物側から生体を見れば薬物は生体機能を修飾するものである。しかし、生体側から薬物を見れば、薬物は本来生体内に存在しない異物である。このような生体－薬物相互作用の観点から、本講義では、薬の作用を理解するために必要な基礎知識について概説する。 授業は基本的に講義形式で行う。必要に応じてディスカッション、質問、小テスト等を講義中に行い、学生の理解度を深めながら進める。 (授業計画) 講義日程参照 (成績評価基準) 講義中の質疑応答などにより確認する理解度をもとに、相対的に成績を評価する。また、講義の出席、出席態度、および、必要に応じて課される講義担当教員からのレポート課題を評価に加味する。 * 欠席者には各教員より欠席レポートを課す。欠席レポートを提出した場合は出席と同等の扱いとする。

○共通教育科目

授業科目	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
微生物学・ウイルス学概論 (オムニバス方式)	(目標) 感染症の原因となる微生物についての基本的知識を身につけ、様々な感染症について理解する。 (授業内容・方法) 微生物の基本的知識についての講義をした上で、様々な臨床分野において重要な感染症について講義する。さらに免疫学の講義も行う。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (成績評価基準) 講義への出席と講義理解度のレポートを評価基準とする。
病理病態学概論 (オムニバス方式)	(目標) 種々の疾患の発症機構を分子レベルで理解する。 (授業内容・方法) がんの発症や進展がどのように起こるかを遺伝子・染色体レベルで説明する。またがん以外の疾患についても同様に扱う。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (評価の方法) 授業への出席と口頭試問により評価する。
社会・予防医学概論 (オムニバス方式)	(目標) 個人および集団の健康が社会の体制、文化、経済等のあり方によって大きく変化することを理解させる。その上で健康に影響を及ぼす広義の環境要因を明らかにし、疾病予防や健康の維持増進に寄与する要因を検証する疫学的手法を理解させる。 (授業内容・方法) 広く環境と健康について論じる。具体的には、医学英語の基礎、環境と健康、労働と健康、環境と精神の健康、さらには社会医学的観点から医療と法についても言及する。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (成績評価基準) 出席状況、レポート提出等
臨床医学概論 (オムニバス方式)	(目標) 臨床医学を理解する。 (授業内容・方法) 臨床医学各科のトピックス、診断や治療の太まかな考え方を概説する。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (成績評価基準) 出席状況や出席態度などにより評価を行う。
医科学研究法概論 (オムニバス方式)	(目標) 医科学研究を行う上で、基本的な実験的および疫学的方法論を学ぶことは重要である。これらには、形態学的、生理学的、分子生物学的、病理学的、および疫学的方法論等がある。これらのオムニバス方式の講義により、それぞれの方法論のエッセンスを習得し、自分の研究の開始にあたってすぐに応用しうることを目標としている。 (授業内容・方法) 形態学的、生理学的、分子生物学的、病理学的、疫学的方法論、研究の倫理と倫理指針等について、講義形式で概説を行う。講義の中には、文献情報収集方法など、実際にコンピュータを用いた演習形式のものも含まれている。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (成績評価基準) 講義への出席と出席態度により評価を行う。
特別講義 (オムニバス方式)	(目標) 近年、生命科学の発展は目覚ましく、各専門領域も細分化されている中、最先端の研究および医療を学習する機会を得ることを目標とする。 (授業内容・方法) 各領域において第一線で活躍している教員・研究者より生命科学・生命倫理に関する最先端の研究、医療に関する講義を受ける。 (授業計画) 前述の講義日程参照 (評価の方法) 出席をもって評価とする。